

## 梶谷正光教授に捧ぐ

中 牟 田 茂 雄

第一経済大学教授・学部長 梶谷正光先生は、平成3年7月11日にご逝去されました。先生は学内において、ひと際大きな光彩を放つ存在であっただけに、本学にとってまことに痛惜にたえず、ほんとうに大切な学者を失ってしまいました。

梶谷先生は昭和21年に東京商科大学（現一橋大学）を卒業されて、株式会社佐賀銀行に籍を置かれた後、昭和46年に第一経済大学助教授として本学に着任されました。そして昭和50年教授、同52年学長、同55年に学部長の職に就きました。研究者として、教育者として、絶えず不断の努力を重ねられると同時に、学内行政にも大いなる手腕を発揮されました。本学に対するその貢献には、まことに敬服せざるを得ないものがあります。

先生のご専門は金融論でありましたが、学術的研究は、専門分野のみにとどまらず、広範な分野に亘っておりました。また社会的活動も多岐にわたり、九州経済調査協会企画委員をはじめ、全国地方銀行協会専門委員として活躍された実績も高く評価されております。同時に理論経済学会会員、九州経済学会会員、金融学会西日本部会会員、国際経済研究センター役員としての業績も顕著なものでありました。

なかでも本学の『第一経大論集』に発表された「円——その対内価値および対外価値——」、「わが国金融制度上における問題点についての一考察」、「米国における賃金・物価の凍結をめぐる論争についての一考察」等の論文は、現代アメリカの経済不況の原因の追求をはじめとして、来たるべき金融自由化に対応した金融機関のあり方、さらに為替変動が経済生活に及ぼす広範な影響等についての卓越した分析を著わされ、次なる時代への展望を着実に予見されております。その真摯な研究姿勢と充実した内容は、特に高く評価されるもので

ありました。

近年、わが国の教育界、経済界において、“産・学協同”とか“産・学・官協同”という表現が、しばしば使われるようになりました。これは、これからの日本が進むべき大きな指標の一つとなっておりますが、想えば、先生は、既に早くから身をもってその道を歩んで来られた偉大なる先達であったことを改めて認識させられました。佐賀銀行在職中から数多くの論文を発表される傍ら、佐賀大学において経済学部講師として「金融経済論」の講義も行われておられました。本学においても、あふれるような情熱を傾けての講義は、受講する学生全員を魅了するものでありました。本学をこよなく愛され、ただひたすらに本学のためにご尽力された、そのお姿に、われわれ一同は、今改めて感銘を深めております。

ここに先生のご生前の功績を称え、とくに『第一経済大論集』の本号を先生の追悼号とし、感謝の意をこめて先生の御霊に奉呈いたします。

1992年3月

(経済学部長)